

令和元年度 大阪市立南中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞ すべての領域において、正答率は大阪府平均を上回り、全体では全国平均と比較してもわずかの差であった。また、無解答率も府平均や全国平均と比べても低く、記述式の問題でも一定の成果が見られた。

＜数学＞ 「数と式」領域で大阪府平均を上回った以外は、府平均や全国平均に比べて正答率が低く、特に「図形」領域の正答率が府や全国の平均との差が大きかった。また、選択式や短答式の問題に比べて、記述式の問題の正答率が低いという課題が見られた。

＜英語＞ 「聞くこと」領域の正答率では、大阪府平均を上回り、「読むこと」領域では府や全国の平均を上回ったが、「書くこと」領域の正答率が低く、全体としては府平均や全国平均には及ばなかった。一方、「話すこと」調査においては、正答率が全国平均を大きく上回り、日頃の学習の成果が表れる結果となった。

本校では外国にルーツをもつ生徒が多く、過去に日本語指導を受けていた生徒や、現在も指導を継続している生徒もいる。そのような生徒にとって、ある程度日常言語が理解できるようになっても、学習言語の習得は難しく、特に「書くこと」には困難が伴う。しかし、ルビ打ちの教科書を作成するなど、個に応じた指導を継続していることで、日本語力は着実に向上しており、次第に成果が表れてきている。

生徒質問用紙の結果では、「人の役に立つ人間になりたい」と100%の生徒が答えているのをはじめ、「人が困っているときは、進んで助けている」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」等の質問に対して肯定的に答える生徒の割合が、大阪市平均や全国平均を上回っている。これらの結果から、相手を思いやることのできる本校の生徒の特長がよく表れていると考えられる。一方で、毎日朝食をとっている生徒の割合が約62%と、大阪市や全国の平均と比べてもかなり低いことや、学校の授業以外の学習時間が大阪市や全国の平均と比較して短いなど、課題も見られる。

【今後に向けて】

日本語指導の必要な生徒をはじめとして、個に応じたきめ細やかな指導を継続していくとともに、授業用パソコンやタブレット端末等のICT機器を有効に活用したり、グループ学習を取り入れたりすることで、よりよい授業を目指して、授業力の向上を図る。さらに、元気アップ推進事業と連携した学習会や、英語検定、漢字検定に向けた取り組みを継続し、生徒が意欲的に学習に取り組める環境をより一層充実させる。家庭学習については、今後も生徒や保護者への啓発を進めながら、定着を目指して取り組んでいく。

また、日々の学校生活やさまざまな行事や取り組みを通じて、相手を思いやることのできる本校の生徒の特長をさらに伸ばしていく。